

ハガルを顧みたもう神

創世記一六章

主の使いはさらに言った。「あなたは身ごもっており、やがて男の子を産む。その子をイシユマエルと名付けなさい。主があなたの苦しみを聞かれたからである。」(11)

アブラハムの家から逃げ出したハガルは、行く当てもなく荒野を彷徨いました。自分のことを心にかけてくれる人など誰もいないと思えたとき、天の神がハガルを追いかけて来られました。もう一度、出て来たアブラハムの家に戻るようにと促す中で、深い慰めの言葉を語られました。「主があなたの苦しみを聞かれた」と。誰も私の苦しみなど分かってくれないと思っていたハガルでしたが、天の神が「分かっているよ」と言われたのです。女奴隷ハガルをも主は顧みておられたのです。そこで彼女は主の名を「エル・ロイ」(13)と呼びます。「主は見ておられる」という意味です。彼女は主の顧みを信じつつ、アブラハムのもとへ帰って行きました。ハガルを顧みたもう神は、この私たちをも顧みておられます。「あなたはエル・ロイです」と仰ぎつつ、今日も力強く生きようではありませんか。